

競書雑誌 制作シェア No.1
バーコード出品券で 楽々編集!

リンクス グループ

競書雑誌Web化を
お手伝いします



•Web会員登録
•Web投稿検索
など

本誌の主な記事
④公立高教員採用状況⑤
大学本論一覽⑥大学書
道教員名鑑⑦卒業情報
⑧の新聞案内⑧紙上展
⑨清華書道展/新書派協会展
⑩清華書道展/墨士会展
⑪書展短信⑫全
国展覧会情報⑬特別展
「至高の宝蔵」28日開幕

書道/ART/文字文化/千趣万香

No1282/2025・3・5

Since 1979

発行所
美術新聞社
東京都世田谷区太子堂2-7-2
〒154-0004 ☎(03)3410-8101
FAX (03)3410-8373
e: kayahara@kayahara.com
編集発行人 菅原 晋
毎月2回 5・20日発行 ©2025
発売 菅原(晋)書房
1部440円税込 年10,000円(税別)
振替00150-5-21073



座談会で「e筆」を解説する開発者の張炳煌氏



台湾の学校での「e筆」による授業風景

台湾発「e筆」、高まる期待

書写学習に“大援軍”

張氏個展で 座談会熱気 本社、日本版開発に協力

台湾書道界の第一人者で、一昨年はその日台文化交流「原力」功徳に対し日本の外務大臣表彰を受けたことでも知られる書道家、張炳煌氏の初の大型個展「張炳煌の書」が、二月十三日から三月十四日まで東京・虎ノ門の台湾文化センターで開催された。その会期中の二月二十八日、会場が問い掛け「伝統と革新」を主題にした座談会が催された。座談会では、作者が四半世紀にわたる研究開発を経てきた「e筆」と、さらには時代を席巻する「AI」が今後、歴史と伝統に交わられた書法文化・芸術にどのような影響を、また我々はこの変革にどのような対応すべきかについて、熱い議論が交わされた。

座談会では、まず冒頭に張氏が、自身にとって人生の三分の一という長い時間をかけて研究と開発を進めてきた「e筆」が、ようやく本格的な実用のレベルに達しつつあるとして、台湾はもとより大陸中国でも書道分野での社会貢献、学校教育支援の面で大きな成果を収めつつある状況を、会場のスクリーンで動画を交えてパワーポイントで解説。これに対し会場からは、事前に会場の一角に設けられていた「e筆体験コーナー」での座談会と先立っての「驚き」が、この場でもよく表れていた。

張氏は「e筆」の研究開発については、最初期から「e筆」の「e」は「電子」ではなく「エレクトロニクス」の「e」である。具体的にはAPPLEの「i」OSの「i」p ad端末や、Android端末などのタブレットとタッチペンが、この場でもよく表れていた。

「e筆」の「e」は「エレクトロニクス」の「e」である。具体的にはAPPLEの「i」OSの「i」p ad端末や、Android端末などのタブレットとタッチペンが、この場でもよく表れていた。

「e筆」の「e」は「エレクトロニクス」の「e」である。具体的にはAPPLEの「i」OSの「i」p ad端末や、Android端末などのタブレットとタッチペンが、この場でもよく表れていた。

「e筆」の「e」は「エレクトロニクス」の「e」である。具体的にはAPPLEの「i」OSの「i」p ad端末や、Android端末などのタブレットとタッチペンが、この場でもよく表れていた。

「e筆」の「e」は「エレクトロニクス」の「e」である。具体的にはAPPLEの「i」OSの「i」p ad端末や、Android端末などのタブレットとタッチペンが、この場でもよく表れていた。

「e筆」の「e」は「エレクトロニクス」の「e」である。具体的にはAPPLEの「i」OSの「i」p ad端末や、Android端末などのタブレットとタッチペンが、この場でもよく表れていた。

「e筆」の「e」は「エレクトロニクス」の「e」である。具体的にはAPPLEの「i」OSの「i」p ad端末や、Android端末などのタブレットとタッチペンが、この場でもよく表れていた。

「e筆」の「e」は「エレクトロニクス」の「e」である。具体的にはAPPLEの「i」OSの「i」p ad端末や、Android端末などのタブレットとタッチペンが、この場でもよく表れていた。

「e筆」の「e」は「エレクトロニクス」の「e」である。具体的にはAPPLEの「i」OSの「i」p ad端末や、Android端末などのタブレットとタッチペンが、この場でもよく表れていた。

「e筆」の「e」は「エレクトロニクス」の「e」である。具体的にはAPPLEの「i」OSの「i」p ad端末や、Android端末などのタブレットとタッチペンが、この場でもよく表れていた。

「e筆」の「e」は「エレクトロニクス」の「e」である。具体的にはAPPLEの「i」OSの「i」p ad端末や、Android端末などのタブレットとタッチペンが、この場でもよく表れていた。

「e筆」の「e」は「エレクトロニクス」の「e」である。具体的にはAPPLEの「i」OSの「i」p ad端末や、Android端末などのタブレットとタッチペンが、この場でもよく表れていた。

「e筆」の「e」は「エレクトロニクス」の「e」である。具体的にはAPPLEの「i」OSの「i」p ad端末や、Android端末などのタブレットとタッチペンが、この場でもよく表れていた。

「e筆」の「e」は「エレクトロニクス」の「e」である。具体的にはAPPLEの「i」OSの「i」p ad端末や、Android端末などのタブレットとタッチペンが、この場でもよく表れていた。

「e筆」の「e」は「エレクトロニクス」の「e」である。具体的にはAPPLEの「i」OSの「i」p ad端末や、Android端末などのタブレットとタッチペンが、この場でもよく表れていた。

「e筆」の「e」は「エレクトロニクス」の「e」である。具体的にはAPPLEの「i」OSの「i」p ad端末や、Android端末などのタブレットとタッチペンが、この場でもよく表れていた。

「e筆」の「e」は「エレクトロニクス」の「e」である。具体的にはAPPLEの「i」OSの「i」p ad端末や、Android端末などのタブレットとタッチペンが、この場でもよく表れていた。

「e筆」の「e」は「エレクトロニクス」の「e」である。具体的にはAPPLEの「i」OSの「i」p ad端末や、Android端末などのタブレットとタッチペンが、この場でもよく表れていた。

中文翻譯

起於台灣的「e筆」最高期待

書寫學習的大援軍 / e筆座談會上熱烈討論、本社將協力開發日本版

學生部門＝全國學生書道展

羊
古城園

書道專門店
〒730-0802 広島市中区本川町1-2-21
☎082(234)2227
本社
〒730-4200 広島県熊野局私書函第1号
☎082(854)1145(代)

臺灣書法界的第一人者張炳煌，以其在日台文化交流方面的貢獻而在前年獲得了日本外務大臣表彰。他在東京的首次大型展覽“傳統與變革/e 筆書畫·張炳煌的書法”於 2 月 13 日至 3 月 14 日在東京虎之門的臺灣文化中心舉行。在展覽期間的 2 月 28 日，展覽現場舉辦了一場以“傳統與變革”為主題的座談會，作者在會上提出了“e 筆”和當今席卷時代的“AI”將如何影響歷史和傳統支撐的書法文化與藝術，以及我們應如何應對這些變革的問題，展開了熱烈的討論。

座談會一開始，張炳煌先生介紹了他花費人生三分之一的時間研究和開發的“e 筆”已經逐漸達到實用水準，並在臺灣及大陸的書畫領域和學校教育中取得了顯著成果。他通過視頻和 PPT 在會場螢幕上進行了詳細解說。對此，現場觀眾基於在座談會前在“e 筆體驗區”的親身體驗，提出了深入的問題和意見。

在此過程中，作為主辦方顧問發言的本社代表萱原表示：“我從最初就密切關注張先生的‘e 筆’研究開發，近年來從‘數位 e 筆’到‘智慧 e 筆’的進化，特別是蘋果 iOS 的 iPad 終端和安卓終端的平板和觸控筆變得非常易用，其實用性已經達到了實用水準。我對此高度評價。”他還補充道：“但我想確認的一點是，近年在美國備受關注的埃隆·馬斯克所提倡的‘第一原理思維’，即無論世界如何變化複雜，都不能失去‘第一原理’。應用到書法上，書法的第一原理就是‘書法從始至終是人用手寫字的行為’。我們在面對‘e 筆’和‘AI’時，也必須將這一原理傳承給下一代。”

對此，張炳煌先生完全同意，並表示：“我研究開發‘e 筆’並不是為了製作書畫作品的工具。在現代這個高度化、效率化的時代，如果書法界僅堅持百年、千年前的方法論，下一代將不再關注，書法將不可避免地衰退。因此，‘e 筆’的初衷是降低年輕人參與書法的門檻，加快進步速度，降低難度，提高理解度。為此，臺灣最近也在積極舉辦 e 筆作品比賽，並計畫開始免費分發‘e 筆’應用程式。”他還強調：“我希望在這個時代能增加書法愛好者，特別是讓更多年輕人喜歡上書法，這正是‘e 筆’開發的願望和目的。”

在座談會的討論中，教育界人士提出了許多具體問題，如“是否可以用於硬筆指導”、“在學校教育中如何應用”、“如何獲取 iOS 最新版本的‘e 筆’應用”等。對此，張炳煌先生詳細回答道：“目前的應用程式在臺灣的教育現場還未完全適用於硬筆指導，但作為書體練習和臨摹學習的工具，已在臺灣和大陸迅速普及。未來‘e 筆’應用程式將在日本也能免費下載，但考慮到惡意協力廠商的存在，版權不會放棄。”

鑒於座談會上的討論和高漲的興趣，美術新聞社決定儘快成立由日本國內教育界人士、學者和研究者等相關領域專家組成的專家會議，著手完善和完成適用於教育現場的“e 筆”日本版本，並積極推動其應用。

日本的書道人口在 30 年前的五分之一，這一情況作為深有關聯的媒體不能無動於衷。30 年前日本人口為 1 億 2500 萬人，現在為 1 億 2400 萬人，人口減少約 1%，但書道人口為何減少如此之多，令人不解。書法界依然保持高水準的活動，學校教育也不遜色於過去。因此，似乎只能解釋為時代的變化。然而，學校的書寫和書法課程是否仍像 30 年前、50 年前那樣用筆、紙和墨進行，恐怕並非如此。

有趣的是，根據文科省 2019 年提出的“GIGA 學校構想”，到 2021 年，小學和中學的 IT 終端普及率分別達到 96.2% 和 96.5%。這意味著，張炳煌先生的“e 筆”在日本教育現場的引入基礎設施已經完備。